

1. 研究活動

我が国の『ものづくり教育』に対する小学6年生の意識分析	2012. 3. 1	美術科教育学会、新潟大会	広島大学三根和浪と共同研究
-----------------------------	------------	--------------	---------------

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目 教科教育法の研究1（美術）	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
明治以降の初等教育の歴史を核にしての講義だが、各時期に活躍した画家の作品や活動をDVD等で見せることにより、芸大に学ぶ学生の興味と関心を喚起した。あわせて学習指導要領や教科書を資料として使用することで実際の学校教育と関係づけ、本講義内容が現実感あるものとした。	「美の巨人」「日曜美術館」などのDVDを使用。他に「日本の美術教育」（橋本泰幸著、明治図書）、「ジャポニスムと日米の美術教育」橋本泰幸著、建白社）、中・高等学校教科書（日本文京出版、開隆堂）
授業科目 教科教育法の研究2（美術）	
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
ここでは美術教科の内容と指導方法の研究を行う。美術教育の内容となる絵画、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞の各領域について、教えるべきと考える題材を設定し、それに関する示範模型とともにその指導法を考える。これにより大学で学ぶ美術が実際の学校教育にどのように関係し展開するかを学ぶ。	中・高等学校教科書（日本文京出版、開隆堂）
授業科目 教科教育の研究（工芸）1	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要

<p>生活と結びつく造形芸術としての工芸の意味、それを生徒らに教える意味を工芸に関わる視覚教材を講義を行う。生活様式の変化に伴う工芸様式の変化については、DVD等による「目」を通しての理解を求めた。また紙工芸の演習では「手」による工芸の意味の理解を求めた。</p>	<p>「張り子」による「面」など伝統的な工芸作品を参考とした。</p>
<p>授業科目 子どもとアート (大学院人間発達研究科)</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>授業は美術にみる様式の変遷、子供の成長に伴う造形表現の展開、造形教育の歴史と未来の三部で内容を構成し、子どもの造形における教育上の課題を求めた。ここでも視覚的教材を用いて『目』による美術理解を基点にして講義を行った。</p>	<p>DVD等、視覚的美術教材。参考資料「日本の美術教育」(橋本泰幸著、明治図書)、「ジャポニスムと日米の美術教育」(橋本泰幸著、建白社)</p>

3. 学会等および社会における主な活動

<p>日本教科教育学会</p>	<p>2012. 3まで</p>	<p>副代表理事、常任理事</p>
-----------------	------------------	-------------------